

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



あれから四十年

お笑いタレント・綾小路きみまろさんは熟年夫婦にみられる光景をネタとして語り、一躍時の人となった方である。そのときに飛び出す決まり文句は「あれから四十年」。以前はあんなに愛し合っていたけれど、今となっては…というくだりがとても面白い。

まだ四十年とまではいかないが、昭和から平成に元号が変わり、早くも三十年を迎える。平成元年の流行語大賞・新語部門は「セクシャルハラスメント」だという。今では「セクハラ」と略され、良いのか悪いのかすっかり定着した言葉だが、当時は新語だったということに驚く。これも三十年という時間が作りだした常識なのだろう。

ともあれ、私たちは時間の感覚がバラバラである。今は「今年一年まだ長い」と感じてみても、いずれは「もう年末だ」と慌ててしまう。その時々で見方はころころと変わるにもかかわらず、自分の考え方こそ正しいのだと主張する、その姿だけはいつまでも変わらないとお経は言い当てる。

実は、この「えこお」も発刊してから四十年となる。その間、様々な出来事によって誌面が飾られてきた。四十年は長いのか短いのかはそれぞれの感覚であるが、発刊当時に思い立った心をもう一度学び直したい。どんな出来事が起きて、語られるべき魂は変わらないと思うのだ。

(高橋 淳記)

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございませす

昨年は大変お力添えを賜り有り難く心より厚くお礼申し上げます。
 本年も変わらぬご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
 皆様方の「西徳寺聞法会」へのご参加をお待ちしております。

平成三十年 元旦

任職 脇阪義幸
 最高顧問 大谷義博
 職員 一同

昭和五十三年二月に創刊されたこの伝導誌「えこお」の名は、「回向」から採られたそうだ。

「回向」は、他より(自分の力以外のもの)与えられるもの、の意味である。
 与えられる資格なき身が、日常生活の中で一つひとつを恵まれたものとして受け取る智恵が、今日一番欠けているのではなからうか。そのことに無感覚の私。
 冥加を見失った私。今年もお恥ずかしい私の一年が始まる。(脇阪 義幸 記)



戌

日誌

11月11日	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 山崎 哲 混声合唱団「エコー」練習	11月21日	『歎異抄』に聞く 講師 宗 正元師
11月11日～20日	本山・茶所布教(高橋)	11月24日～28日	本山・御正忌報恩講 御堂式務衆出勤 (任職・蓮井・仲井)
11月12日	中央ブロック会聞法会(西徳寺・参加者21名)	11月25日	混声合唱団「エコー」練習
11月13日	東京教区総会(新横浜・任職参加)	11月27日・28日	宗祖忌
11月14日	仏教青年会報恩講 講師 曹洞宗・千光寺住職 細川哲心師	12月1日	責任役員会・総代会
11月15日	婦人会・大衆演劇観劇会 (浅草・木馬館・参加者21名)	12月1日～10日	本山・茶所布教(大橋)
11月18日	定例聞法会	12月2日	評議員会定例役員会 混声合唱団「エコー」練習
11月19日	城北ブロック会聞法会 (池袋・くいものや わん 参加者17名)	12月7日・8日	中興忌
		12月9日	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 高橋 淳

親鸞さんのことば

愛に愚禿親鸞、慶ばしき哉、
西蕃月支の聖典、東夏日域の師釈、
遇い難くして今遇うことを得たり。
聞き難くして已に聞くことを得たり。

「総序」
松井憲一

前号の「聞思して遅慮することな
莫^なか^なをうけて、親鸞聖人は「ここに
愚禿^{ぐとく}釈の親鸞、慶ばしいことに、イ
ンド・中央アジアの聖典、中国・日
本の師が解きあかされた書物に、遇
い難いのに、今、遇うことができた。
聞き難いのに、すでに、聞くことが
できた」といわれます。

「爰^{こゝ}に」と、ここにおいて聖人は、
「愚禿^{ぐとく}釈親鸞」と、みずから名のりを
あげられます。「愚」は、自分と他人
を比較して、物知りではないという
謙遜の意味の愚ではありません。当
時の人々から「智慧第一の法然房」
と崇められた法然上人が、「愚痴^{ぐち}の
法然房」を告白されるのに出遇って
教えられた、凡夫としての深い自覚

をあらわす言葉です。「蚊に食われ
食物連鎖の 輪に入る」のに、
「罪の身を 蚊にも食わせん 凡
夫かな」という自分にはじめて気
づく愚かさです。それは、「罪惡深重
煩惱熾盛の衆生をたすけんがため
の願にてまします(『歎異抄』)」と
いわれるように、本願に照らされ
てあらわになった虚仮不実以外に
ない姿の「愚」なのです。

「禿」は、聖人が、一二〇七(承元
元年)年三十五歳の時に、「ただ念
仏」の教えを生きる人々に厳しい
弾圧が行なわれました。その時に
「すでに僧にあらず俗にあらざ」と
いわれ、その時から「禿」の字を姓
とされるようになりました。

「釈親鸞」は、二十九歳の時に法
然上人に出遇い、本願に帰した後、
三十三歳の時に、上人の『選択本願
念仏集』の書写と、肖像画の描写が
ゆるされた時に、上人からいただ
いた法名、仏弟子の名です。「親鸞」
の名のりは、インドの天親菩薩の
「親」と中国の曇鸞大師の「鸞をい
ただかれた名です。天親菩薩は、阿
弥陀仏の本願を、「一心帰命」と表
白されました。その領解は、「天親
菩薩のみことをも 鸞師^{らんし}ときのべ

たまわずは 他力広大威徳の
心行いかでかさたらまし(『曇鸞
讚』)と讃えられるように、曇鸞大
師によって明らかになったといわ
れます。釈親鸞の名は、天親・曇鸞
の教えをより深く学び、「ただ念
仏」を明らかにしようとする使命
と責任をあらわす名のりでもあり
ます。

「慶ばしい哉」は、阿弥陀仏の願
いを聞思してくださった伝承の聖
者と教えに、今現に遇い聞くこと
ができたという聖人の感動です。

「西蕃・月支の聖典」の「西蕃」は
インドを、「月支」は中央アジアを
指します。「聖典」は、インドの菩薩
の著述、龍樹菩薩の『十住毘婆沙論』
などで、中央アジアの聖典とは、天
親菩薩の『浄土論』のことをいいま
す。

「東夏・日域の師釈」の「東夏」は
中国のこと、曇鸞和尚の『浄土論註』、
『讚阿弥陀仏偈』と、道绰禅師の
『安樂集』、善導大師の『観経疏』を
はじめとする五部九巻の著述です。
「日域」は日本のことで、源信大師
の『往生要集』と、親鸞聖人の師で
ある源空(法然)聖人の『選択本願
念仏集』のことです。聖人が選ばれ

た、浄土真宗を伝承してくださった
七人の方々の著述には、それぞれ阿
弥陀仏の願いをいただいた、独自の
見解が示されています。

阿弥陀仏の願いを伝える聖教に
遇うのもご縁ですが、ここではその
聖教に、「遇い難くして今遇うこと
を得たり。聞き難くして已に聞くこ
とを得たり」といわれます。「遇い難
く」「聞き難く」とは、「遇うべきこと
に遇い、聞くべきことを聞き得た」
人のみ実感です。それで「今遇う」
「已に聞く」ことを「得たり」の慶び
は、いつも南無阿弥陀仏の初一念に
帰って、生涯を尽くさせていただけ
るのです。



山門の言葉

人身受け難し いますでに受く (三帰依文)

昨年の夏、野球の試合中に怪我をした。診断は左膝の前十字靭帯断裂。生まれて初めての入院と手術を十月に受け、多くの人に迷惑をかけたが、おかげさまで今は順調にリハビリを進めている。

今回の怪我で、自分がほとんど聞いたこともない身体の一部によって支えられていたことを知らされ、逆に何に支えられているかということに、あまりに無頓着であったことに驚いた。

聞法会でよく唱和される「三帰依文」の始めには「人身受け難し、いますでに受く」とある。私たちは受け難い人の身を偶々受けているのだ。しかしその身を受けたところからしか物事を見られない。つまり「私」、「私」と思っているながら、私自身を分らずに生きているのではないだろうか。私が生まれたのは両親が出会い、結婚したからであって、日頃名乗っ

ている名前も親が付けたものである。また人との出会いも偶々ではないか。誰かと遇いたくて遇うのではない。運命的などというのは勝手なこじつけであろう。しかしその歴史的な偶然こそが今の私の相、私そのものといってもいい。

偶々といってもその一つ一つに願いがあり、今、この私において、その偶々が必然の真理になっているのである。

私は私であっても、実は私が思いもしない偶々の力、そして願いをいだいて生きていく。当たり前のことであるが、わざわざ「絆」という言葉が流行するほど足下が見えなくなっている私たち。一日一日を有り難くは過ごせないが、せめて我が身の事実を頷いてから新しい一年を迎えたい。

(仲井 真裕 記)



えこお志お礼

新潟県 巖念寺 様

大阪府 最勝寺 様

品川区 市田 幸子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

西徳寺 婦人会だより

第339号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。新年を迎え、昨年をふり返ってみました。初めての事ばかりでしたが、勉強もさせていただきました。

その中でも、11月の報恩講では、初めての企画(浪曲口演)を開催致しました。私はどれ位の方がいらして下さるかとお気をもんでいましたが、なんと本堂ぎっしりのお客様にお越しいただきまして驚きでした。お寺様でも初めての出来事だったそうです。始まる直前には、すごいうねりを感じて、このうねりはなんだろうと思いましたが、これは「見えない力をいただいたのでは」と一瞬感じました。

この催しは、お寺様と私共役員とのお話し合いの上で開催した催しで、お寺様と私共の心が一つになっていた事が大きな力になって、大勢の方に来ていただけたのだと思います。以前、ある方から「何事も和をもって、心一つになって挑めば、おのずと結果は出るもの」と教えられた事がありました。心一つになる事の大切さを体験した一日でした。

今年も私にあたえられた仕事を一つ一つ務めていこうと思います。どうぞ、皆様方のご協力をお願い申し上げます。(辻 佐和子)

西徳寺報恩講

婦人会主催「玉川奈々福のほとばしる浪花節」を楽しむ

昨年11月4日、5日に西徳寺報恩講が勤修されました。5日(日)午後に奉讃法座として、婦人会主催で浪曲口演を開催しました。浪曲師の玉川奈々福さん、曲師の沢村豊子師匠をお迎えし、自作の「親鸞聖人御伝記 六角堂示現の巻」「金魚夢幻」を披露していただきました。満堂の中、奈々福さんのうなり声と豊子師匠の三味線の音色が本堂に響き渡り、浪曲の世界をたっぷり堪能させていただきました。

(蓮井 邦宗)



大衆演劇観劇会

昨年11月15日(水)、会員21名の参加のもと、浅草木馬館におきまして、大衆演劇観劇会を開催しました。最初は音量に圧倒されていましたが、時間が経つにつれて、どんどん引き込まれ楽しんでおられました。懇親会では、釜飯を堪能しながら女子会トークに華が咲き、大いに盛り上がりました。(蓮井 邦宗)

次回聞法会のご案内

日時 平成30年2月21日(水) 午後1時30分～
場所 西徳寺 星月の間
法話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「信心のさだまるとき 往生またさだまるなり」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

※聞法会の開始時間が変更となります。平成30年2月の聞法会より、午後1時30分からの開始となります。何卒宜しくお願ひ致します。

ひとこと

新年あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になり、誠にありがとうございました。本年も変わらず一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。

西徳寺様にご縁を頂いて早や二年が経ちましたが、婦人会のお集まりにご無沙汰しており失礼なことばかりでありました。今年はお出来る限り一緒させて頂き、おはずかしい日々の生活の中にお念仏のみ教えを重ねて聞かせて頂き、「賜りたるいのち」の有難さを喜ばせて頂きたいと存じます。

凡愚のわが身に「坊守」として何が出来るか、まだまだ手探りの今年一年であります。お導きのほどよろしくお願ひ申し上げます。(坊守 脇阪 千鶴江)

婦人会員募集

婦人会では新会員の募集をしております。ご婦人の方で興味のある方ならどなたでも結構です。是非一度ご参加ください。

年会費納入のお願い

当婦人会は会員の皆様の会費によって運営されております。年会費(3,000円)の納入を、何卒よろしくお願い致します。

掲示報

平成30年 1月

元日(月) 午前7時	修正会
7日(土) 午前11時	婦人会新年会
13日(土) 午後3時15分	混声合唱団「エコー」練習
20日(土) 午後1時半	定例聞法会
21日(日) 午後3時	評議員会新年会
23日(火) 午後7時	仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師
25日(木) 午後1時半	『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師
27日(土) 午後3時15分 午後5時半	混声合唱団「エコー」練習 同行会新年会

城北ブロック会聞法会

去る11月19日(日)、池袋西口・居酒屋「くいもの屋 わん」におきまして、城北ブロック会聞法会を開催いたしました。今回、副会長の加藤晃司様のご尽力により会場を設営することができ、当日は18名のご参加をいただきました。

聞法会では大谷顧問から「往還二回向」についてご法話をいただき、往還道とは、往く道は還る道であり、私どもの人生に先立って生老病死の人生を、念仏の教えに立ち帰って生きて行かれた人々が歩まれた道であるとお話してくださいました。

今回は、平成30年3月11日(日)、王子・北とびあにおきまして聞法会を開催いたします。大勢のご参加をお待ちしております。(木村 専正 記)



【訂正とお詫び】

『えこお』平成29年12月号「編集後記」において、「地球が誕生して約36億年」と掲載しましたが、「地球が誕生して約46億年」が正しい表現です。訂正してお詫び致します。

(主任 木村 専正)

編集後記

帰宅途中、自転車に追突され、左手の人差し指を骨折してしまいました。検査の結果、全治1ヶ月半という診断が下され、何をすることも不自由で、イライラする日々を送っています。

たかだか指一本の骨折ではありますが、その夜は疼いてあまり眠れませんでした。やはり人間は思考する生き物であると同時に、具体的には現実を生きる身体があることを思い知らされました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

中央ブロック会聞法会

去る11月12日(日)、西徳寺本堂におきまして、中央ブロック会聞法会を開催いたしました。初参加の方1名を含む、16名の方に出席いただきました。

法話の中で大谷最高顧問は、「僧侶の装束の一つである修多羅というのは、一本の紐を縦に組んだものであり、これにて我々人間の根本を貫く真実の經典である『仏説無量壽経』が表されている。私たちのいのちを支え、どのような現実もそこに生きる意義を見出すはたらきが、南無阿弥陀仏である」と、教えてくださいました。

「仏教にはいろんな宗派があるが、教えは全部違うのか」という質問にたいして、お釈迦様はあらゆる方法をもって南無阿弥陀仏の教えを説かれた(対機説法)のであり、教えは一つであると答えていただきました。

今回は、平成30年4月29日(日)、湯島天神・梅香殿におきまして、総会・聞法会を開催いたします。お誘い合わせの上、大勢の方の参加をお待ちしております。(蓮井 邦宗 記)



仏教青年会報恩講

去る11月14日(火)、仏教青年会報恩講をお勤めいたしました。今年は会員の意見から、石川県珠洲市にある曹洞宗・千光寺住職、細川哲心師にお越しいたご法話をいただきました。あまり馴染みのない高野山での修行の話や、そこから感じられた共に生きるという精神。宗派は違えど、根っこでつながっているのだと一同驚き、興味深く聞かせていただきました。

これからも視野を広く、皆様と共に学んでいきたいと思っております。

(仲井 真裕 記)



※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com